

大杉谷国有林からの手紙

17通目 ～森林の植生の回復を目指して！！～

6月の初めに梅雨入りとなりましたが、今年は、空梅雨でしょうか？

先日、シカ被害対策の現地検討会で、大台林道を走行した際に、土埃で車体が真っ白になってしまいました。

しかし、油断は禁物です。大杉谷は全国有数の多雨地域です。多くの災害が発生しているので、林道を走る時は、落石や路肩崩壊などの危険な箇所がないかを確認するようにしています。

でも、雨の日は、滑りやすく、合羽の中は蒸れ、視界も悪いので、正直キツイですが、安全作業で頑張ります。



麓は晴れでも県境部は雨、これが大杉谷です。

さて、今回は、5月11日に開催した「第3回大杉谷国有林における二ホンシカ対策森林施業の現地学習会」について、ご紹介します。

この現地学習会は、二ホンシカの食害等により未立木地となり、土砂流出等の危険性が高い箇所における計画的かつ着実な植生回復を図ることを目的とし、「大杉谷国有林における二ホンシカによる森林被害対策指針」の策定に携われた森林再生支援センターの高田常務理事を講師に招き、県、町、森林組合等関係者の参加の下、平成27年度から実施しています。

3回目となる今年度は、総勢40余名で、昨年度の事業地の経過観察を行った後、今年度事業の概要説明及び事業実施に当たっての留意点の整理、引き続き、今後の事業予定箇所において、必要とされる施業内容についての意見交換を行いました。

参加者の皆さんからは、「植生が衰退すると、これだけ表土を流出させることを実感できた。森林を早く回復させないといけないと感じた」、「シカのネットを張って、苗木を植えるだけでなく、現地に応じた樹種の種類や植え方など工夫しなければいけないことが沢山あることがわかり勉強になった」との感想がありました。



昨年度植栽箇所での経過観察

今回の会場である地池林道周辺地域は、シカの食害等により植生が衰退し、一部、表土の流出が見られるなど、早急な対策が求められています。現在、「被害対策のロードマップ」に基づいて、公益的機能の高度発揮に向け、段階的に被害対策を進めています。

昨年度は、ロードマップの②として、45頭の捕獲を行った結果、糞塊密度調査による生息密度の推定では、これまで見られた生息密度の上昇及び生息区域の拡大に一定の歯止めをかけることができました。

これを受け、今年度も地池林道周辺において、50頭の捕獲を行うとともに、地域性苗木を植栽し、森林植生回復に本格着手したところです。

三重署では、捕獲と森林植生回復を同一箇所で行うことは、初めての試みであり、次のステップに進む上で、着実に成果を挙げていくことが求められています。

私もこの事業に携わって3年目になります。植栽した苗木は順調に育っていますが、森林として回復したという実感を感じるというには至っていません。しかし、諦めるわけにはいきません。

現場の森林官として、現地をみて、いろいろと試してみても、また現地をみて、一段一段、階段を上がっていく息の長い取組が必要だと思っています。

この現地学習会もステップアップの機会として、みんなで、森林植生の回復に向けたアイデアを出し合って、宮川源流部に相応しい森林に戻す努力を中断することなく、着実に進めていきますので、皆様の応援をよろしくお願いします。

最後にお知らせです。7月2日(日)に近畿中国森林管理局1階の「森林のギャラリー」において、山の日PRイベント「大阪のまちなかで山遊び！」が開催されます。

当日は、山の生き物をテーマにした子ども向けワークショップや、森林管理・国立公園管理を担う職員によるトークイベントがあります。大杉谷国有林の魅力をたっぷりとお紹介しますので、お時間があれば、ぜひお越しください。お待ちしております。

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)



現地の土石を活用した新たな工法を体験



昨年度に植栽した苗木の成育状況(29年6月16日撮影)